



2019年3月期 第2四半期決算説明会資料

トピー工業株式会社

証券コード 7231



2018年度（2019年3月期） 第2四半期決算について

2018年度 第2四半期決算概要



前年同期比、増収減益。売上高は+280億円の増収。営業利益は△3億円の減益。経常利益は△6億円の減益。親会社株主に帰属する四半期純利益は△6億円の減益。

(単位：億円)

	2017年度 上期	2018年度 上期	前年同期比	
			増減	増減率
売上高	1,072	1,352	+280	+26.1%
営業利益 (営業利益率)	36 (3.4%)	33 (2.5%)	△3 (△0.9ポイント)	△7.4%
経常利益	40	34	△6	△15.8%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	28	22	△6	△19.5%
中間配当 (円)	20	20	0	—

※第1四半期よりリンテックス(株)を、第2四半期より旭テック(株)を新規連結。

2018年度上期の経営環境 (2017年度上期対比)

◆外部環境

○－×：環境・影響の評価

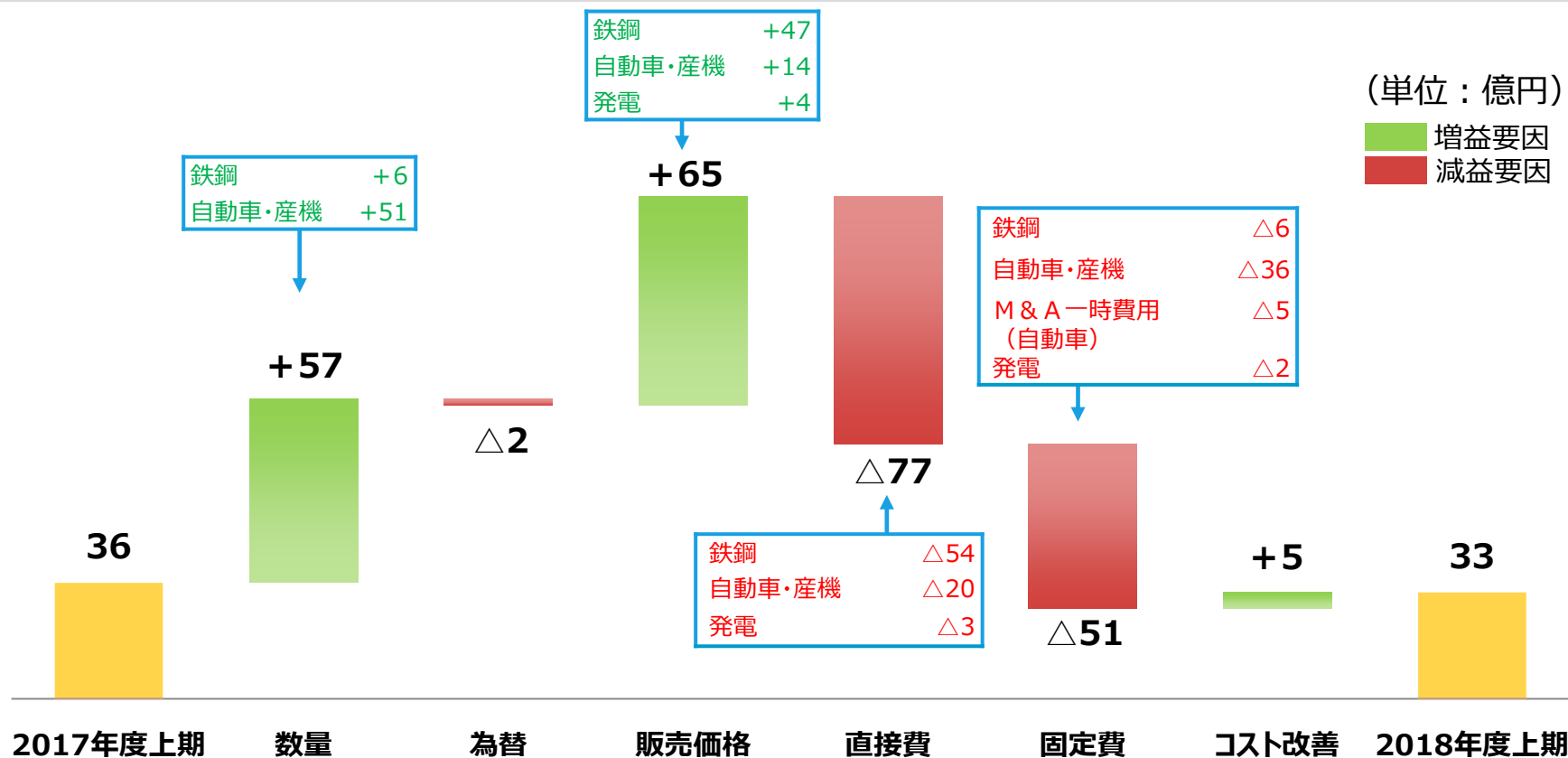
海外経済	○	米国：緩やかな景気の拡大が進展
	－	中国：景気持ち直しが継続
	－	東南アジア：景気持ち直しの動きが継続
日本経済	－	雇用情勢の改善、鉱工業生産や設備投資の増加により緩やかな回復が続く

◆当社グループ

鉄鋼事業	－	鋼材需要が底堅く推移
	○	メタルスプレッドは改善
	×	副資材価格、電力料金等が上昇
自動車・産業機械部品事業	×	自動車用ホイール：米国の乗用車生産は減少
	○	履帯・履板：海外の建設機械需要がさらに増加
	○	鉱山機械用ホイール：鉱山機械需要がさらに増加
発電事業	○	販売価格（電力料金）は上昇
	×	燃料価格（石炭）は上昇

営業利益増減要因 (対2017年度上期実績)

販売数量の増加に加え、販売価格が上昇したが、製鋼副資材等の大幅な価格上昇によるコストアップが大きく、△3億円の減益。



期間為替	2017年度上期	2018年度上期
米ドル	111.3円	110.7円
中国元	16.5円	16.6円

コスト改善	直接費 +5
	固定費 0

2018年度 上期セグメント別業績



自動車・産業機械部品事業は+4億円増益。鉄鋼事業は△4億円の減益。発電事業は△1億円減益。

(単位：億円)

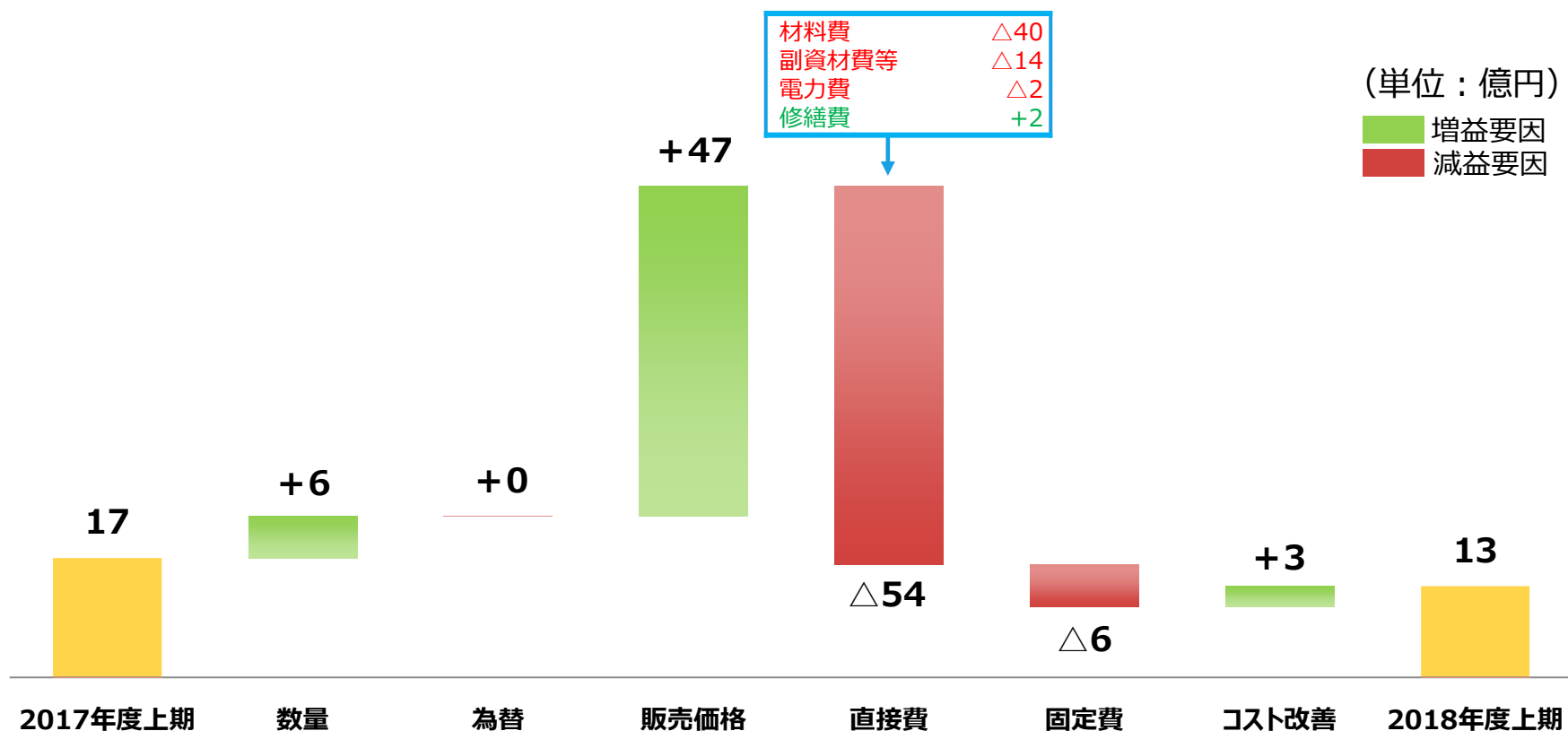
	2017年度上期		2018年度上期		前年同期比	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
鉄鋼事業	332	17	410	13	+78	△4
自動車・産業 機械部品事業	662	32	859	36	+197	+4
発電事業	46	5	49	4	+3	△1
その他	32	7	34	8	+2	+1
消去	—	△25	—	△28	—	△3
連結計	1,072	36	1,352	33	+280	△3

鉄鋼事業 営業利益増減要因

(対2017年度上期実績)



販価改善に努めメタルスプレッドは改善したものの、副資材価格等の高騰によるコストアップ影響が大きく、△4億円の減益。



期間為替	2017年度上期	2018年度上期
米ドル	111.3円	110.7円
中国元	16.5円	16.6円

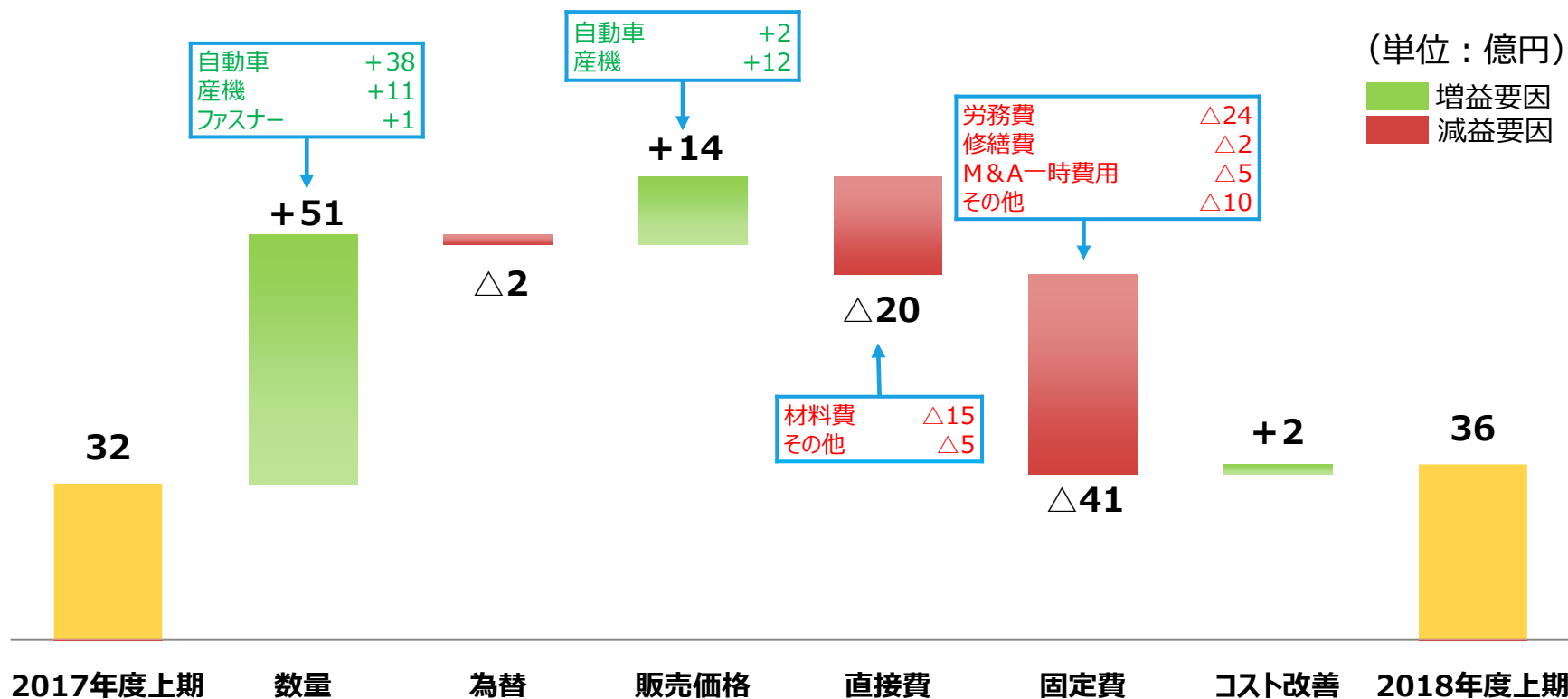
コスト改善	直接費 +3
	固定費 0

自動車・産業機械部品事業 営業利益増減要因

(対2017年度上期実績)



材料費の上昇、M&Aに係る一時費用の発生があったものの、建設機械用足回り部品、鉱山機械用ホイールの数量増および新規連結効果により、+4億円の増益。

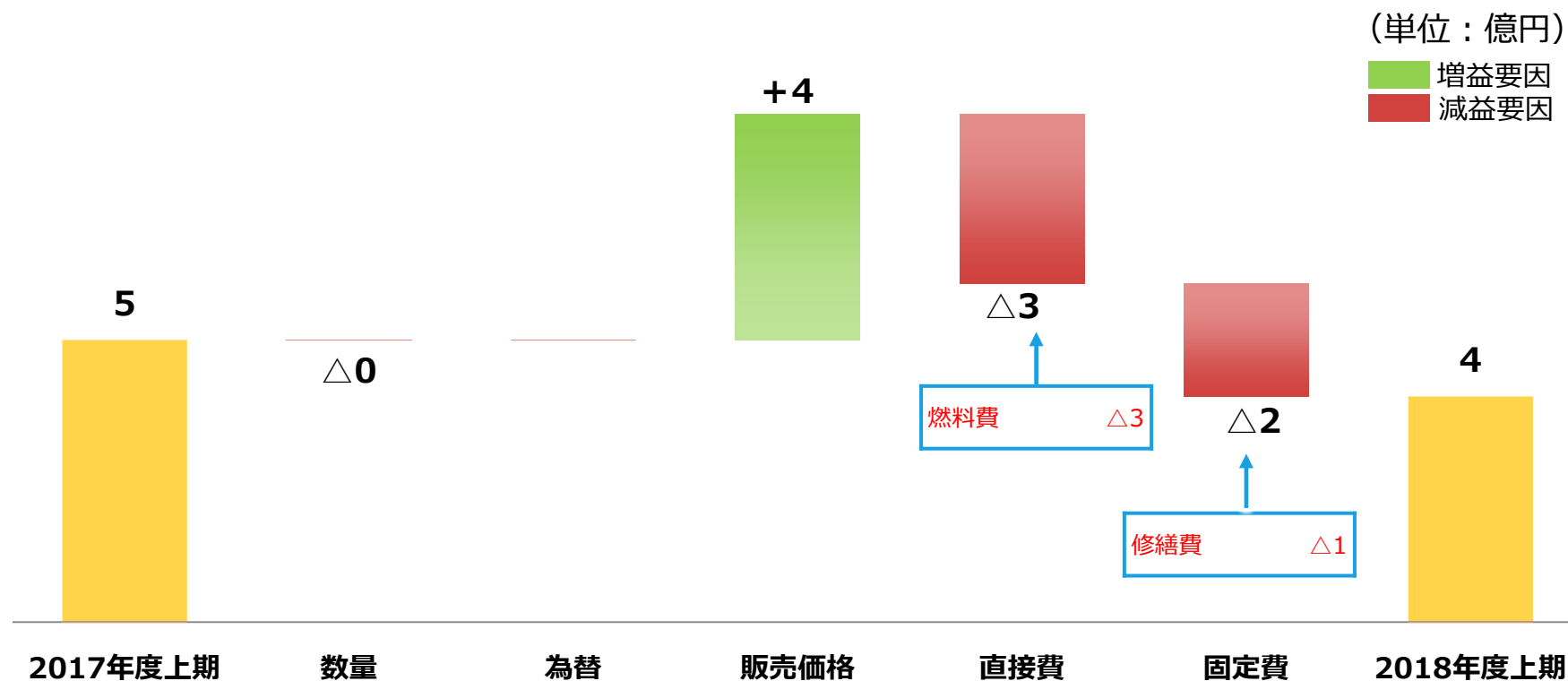


期間為替	2017年度上期	2018年度上期
米ドル	111.3円	110.7円
中国元	16.5円	16.6円

コスト改善	直接費 +2
	固定費 0

発電事業 営業利益増減要因 (対2017年度上期実績)

販売価格の上昇によりマージンは改善したものの、修繕費の増加により+1億円の減益。



期間為替	2017年度上期	2018年度上期
米ドル	111.3円	110.7円
中国元	16.5円	16.6円

第2四半期決算 当初予想（5月10日公表）対比



当初予想比、増収増益。売上高は+22億円の増収。営業利益は+3億円の増益。経常利益は+5億円の増益。親会社株主に帰属する四半期純利益は+4億円の増益。

（単位：億円）

	2018年度 上期当初予想	2018年度 上期実績	当初予想対比	
			増減	増減率
売上高	1,330	1,352	+22	+1.6%
営業利益 （営業利益率）	30 (2.3%)	33 (2.5%)	+3 (+0.2ポイント)	+11.2%
経常利益	29	34	+5	+16.2%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	18	22	+4	+23.7%
中間配当（円）	20	20	0	—

2018年度上期の経営環境

(対当初予想 (5月10日公表))



◆外部環境

○－×：環境・影響の評価

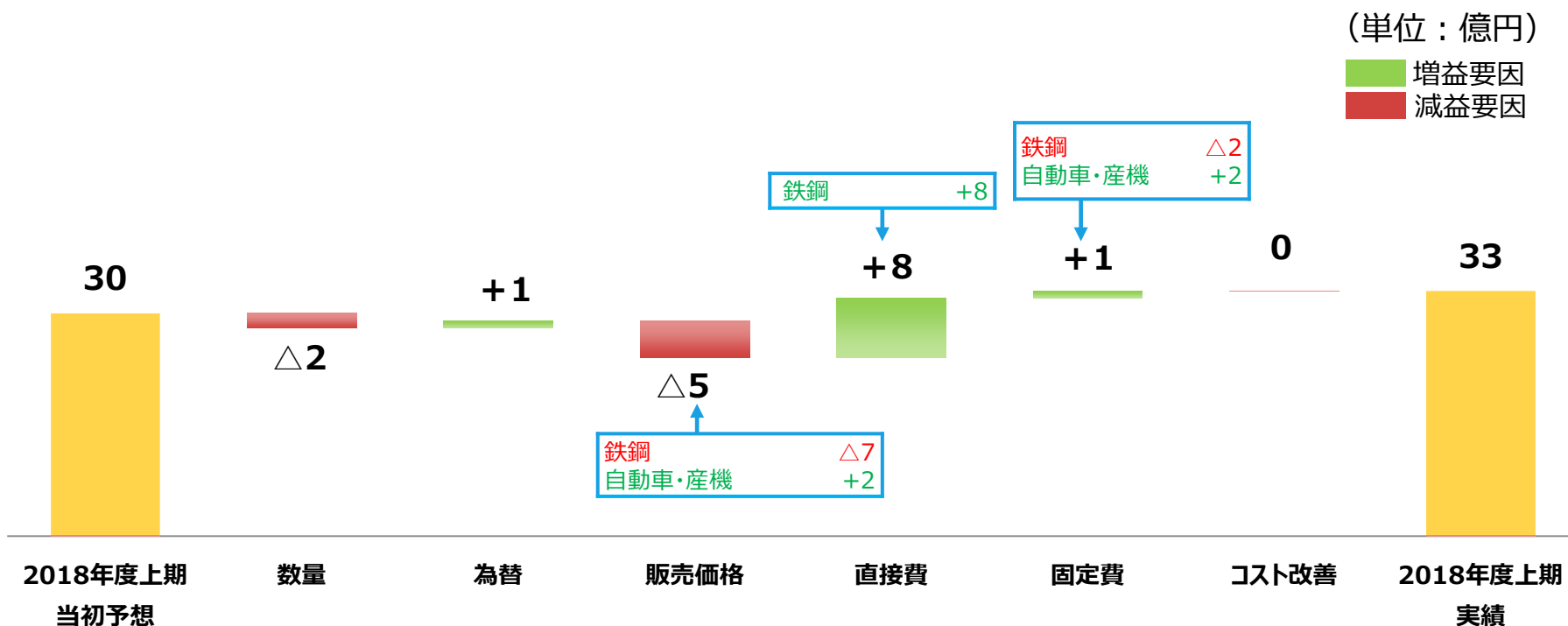
	対当初 予想	
海 外 経 済	－	米国：緩やかに景気が拡大
	－	中国：景気持ち直しの動き
	－	東南アジア：景気持ち直しの動き
日 本 経 済	－	雇用情勢の改善、鉱工業生産や設備投資の増加により緩やかに回復

◆当社グループ

	対当初 予想	
鉄 鋼 事 業	－	鋼材需要が底堅く推移
	○	メタルスプレッドが改善
	－	副資材価格、電力料金等が上昇
自 動 車 ・ 産 業 機 械 部 品 事 業	－	自動車用ホイール：米国の乗用車生産は減少
	○	履板・履帯：海外の建設機械需要が増加
	－	鉱山機械用ホイール：鉱山機械需要が増加
発 電 事 業	－	販売価格（電力料金）および燃料価格（石炭）は概ね予想どおり

営業利益増減要因（対2018年度当初予想）

セグメント毎に若干の上振れ下振れはあるが、ほぼ当初予想どおり。当初予想比+3億円の増益。



期間為替	2018年度上期 当初予想	2018年度上期 実績
米ドル	105.0円	110.7円
中国元	17.0円	16.6円

コスト改善	直接費	0
	固定費	0



2018年度（2019年3月期） 通期業績予想について

2018年度 通期業績予想



通期業績予想については、当初予想（5月10日公表）から変更なし。豊橋製造所製鋼工場の事故による業績への影響については精査中。

（単位：億円）

	2017年度 実績	2018年度 予想 (5/10公表)	前年度比	
			増減	増減率
売上高	2,305	2,830	+525	+22.8%
営業利益 (営業利益率)	80 (3.5%)	100 (3.5%)	+20	+25.0%
経常利益	80	101	+21	+25.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	55	68	+13	+23.6%
年間配当（円）	80	90	+10	—



中期経営計画
“Growth & Change 2018”
の進捗状況について

基本方針

持続的な成長と働きがいのある会社への変革

－ ROE 5%以上を達成 －

重点テーマ

1. 事業の持続的成長
2. 社会からの信頼と共感
3. 企業基盤の強化

進捗状況

長期的視点での諸施策を着実に実行。自動車用ホイールを中心に事業を拡大し、2018年度の売上高は目標達成の見込み。

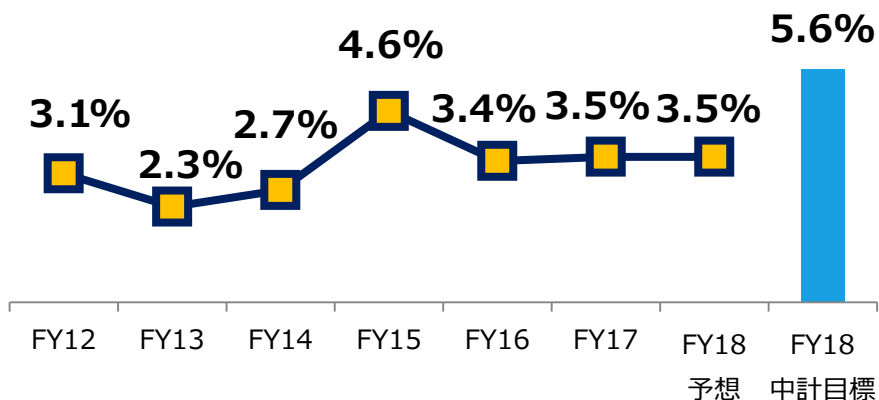
しかしながら、鉄鋼事業の主原料である鉄スクラップや副資材、自動車・産業機械部品事業の材料である鋼材等の急激な価格上昇に伴うコストアップにより、利益水準は目標未達となる見込み。

	中計目標 2018年度	予想数値 (5月10日公表)
売上高	2,500億円	2,830億円
営業利益	140億円	100億円
親会社株主に帰属する 当期純利益	85億円	68億円
ROE	7.7%	6.1%

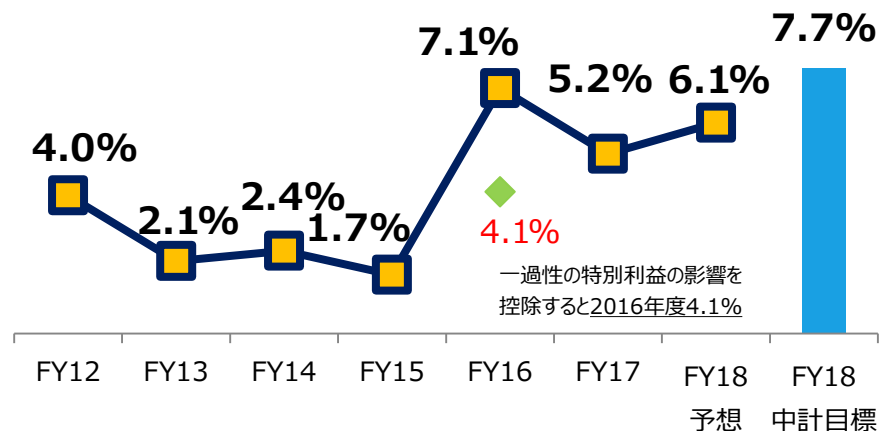
2018年度の取り組み

販売価格の改善を更に進めるとともに、異形棒鋼の新製品TAc coilの販売拡大等に注力する。さらに、リンテックス（株）および旭テック（株）とのシナジー効果発現に取り組む。

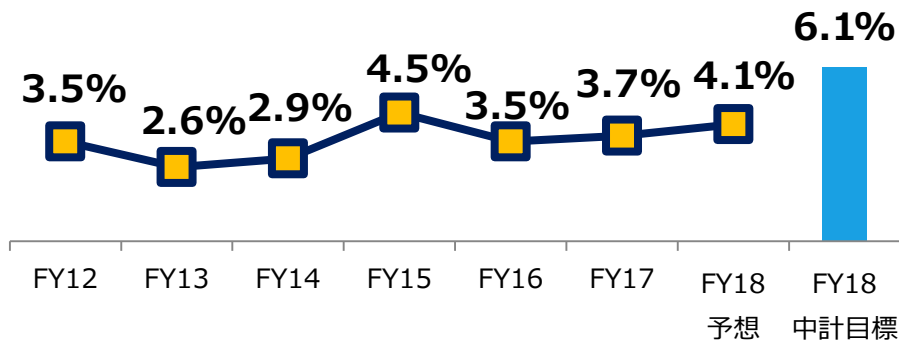
売上高営業利益率



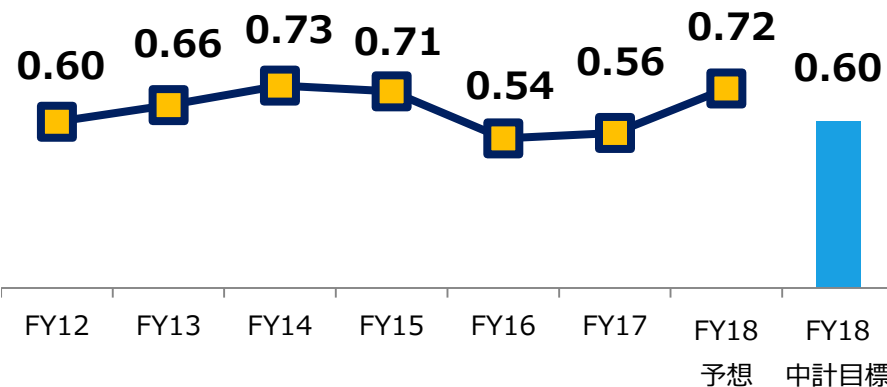
自己資本利益率 (ROE)



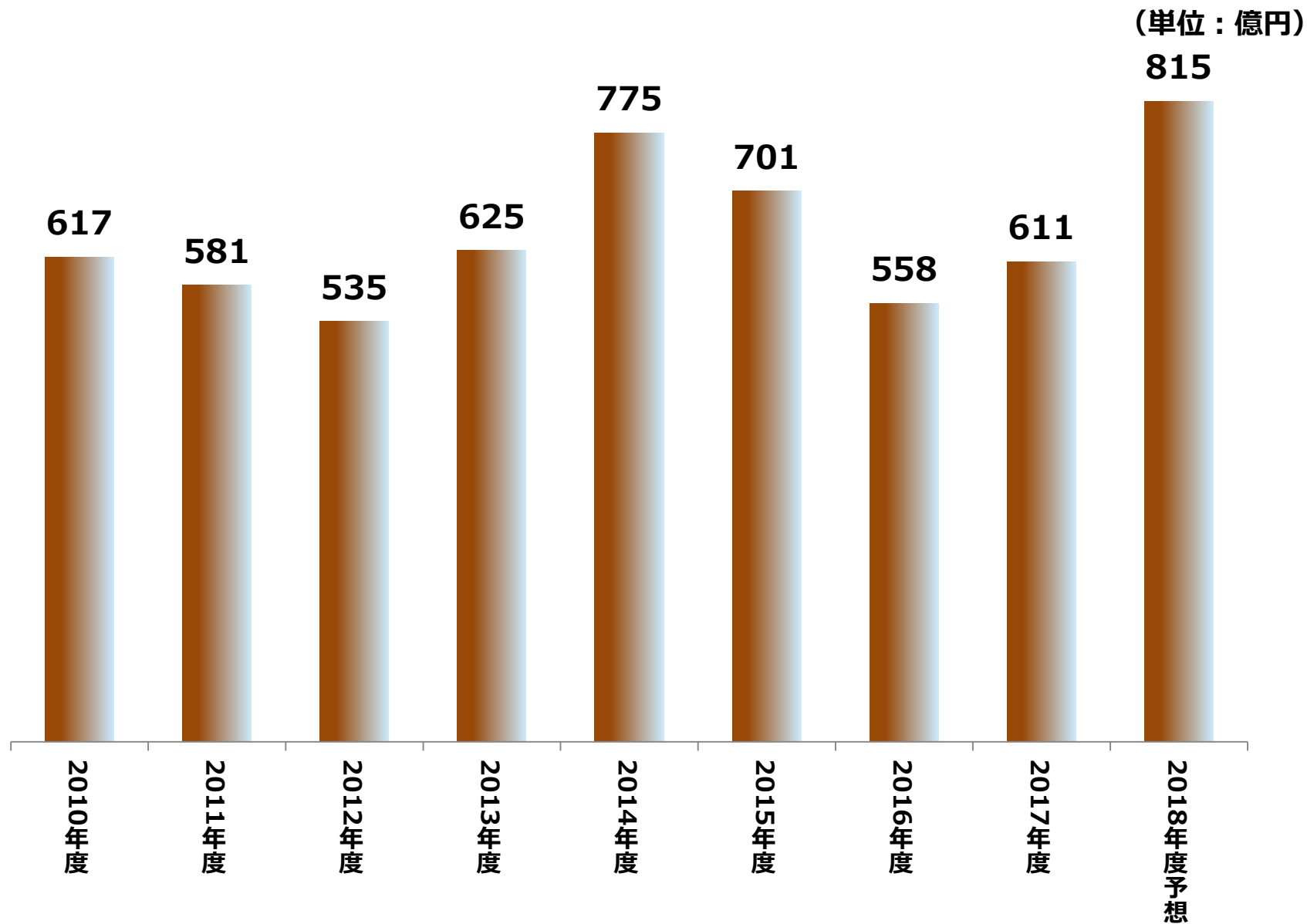
総資産事業利益率 (ROA)



D/Eレシオ



有利子負債





トピックス

日本初のコンパクトコイル「TACoil®」(ティーエーコイル) を販売開始



2018年9月JISの認証継続承認を受領、10月より販売開始



10月19日に開催した初出荷式

■TACoil®の特長

・加工効率の向上

NC 加工機と組み合わせて使用することで、伸線、切断、曲げ作業を自動化。

・加工ロス

自由な長さに切り出しできるため、加工時のロスを極限まで低減させ、歩留まりが向上。

・保管スペース

高密度でコンパクトなため保管場所の省スペース化を可能とし、輸送効率も向上。



新設したTACoil生産ライン

ベラーズ社への鉱山機械用ホイールのOEM供給を開始



■ 狙い

鉱山開発が進むロシア・CIS地域での
鉱山機械需要の捕捉

■ ベラーズ社概要

- ・ 設立： 1948年
- ・ 本部： ベラルーシ共和国
- ・ 主要製品： 超大型ダンプトラック、ホイールローダー等
- ・ ロシア・CIS地域で圧倒的なダンプトラックシェア
(ダンプトラック稼働台数で世界3位、ロシア・CIS地域
1位 ※当社調べ)

■ 経緯

- ・ 2018年1月
ベラーズ社の90tから240tクラスのダンプトラック向け
にSGOR[®]（鉱山機械用ホイール）の本格納入開始。
- ・ 2018年9月
ベラルーシで開催されたベラーズ社70周年記念式典に
参加。品質や技術力、製品供給能力など総合的に高く
評価を受けている。



ベラーズ社式典会場へのSGOR展示



ベラーズ社製ダンプトラック

トピー履帯インドネシア 履帯組立ライン新設



■狙い

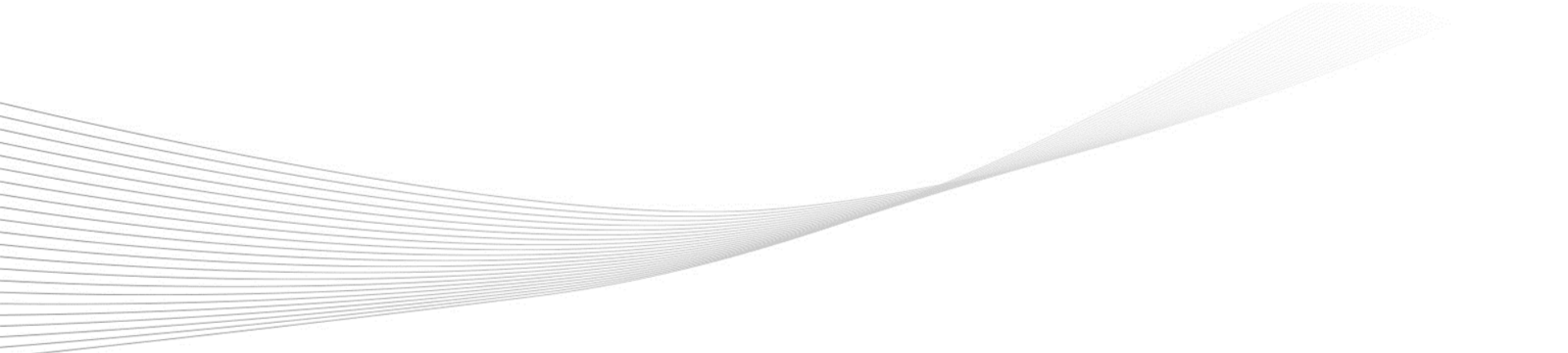
インドネシアをはじめとする東南アジア地域の建設機械需要の増加にフレキシブルに対応できる体制の構築。

- ・ 生産能力の拡大
- ・ 生產品種の拡大
- ・ 納入リードタイムの短縮

■スケジュール

- ・2018年10月 試量産開始
- ・2018年11月 本格稼動開始





One-piece Cycle

流れるように美しい、技術と品質。

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
また、本資料に記載された将来の予測等は、資料作成時点で入手された情報に基づくものであり、不確定要素を含んでおります。
従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控え下さいますようお願い致します。
本資料利用の結果生じたいかなる損害につきましても、当社は一切責任を負いません。